

28K-pm02

薬剤師活動への薬学生の意識調査

○倉元 涼¹, 佐藤 宏樹², 三木 晶子², 児島 恵美子¹, 澤田 康文² (¹メディセレスクール,
²東大院薬)

【目的】これまで、薬学生を対象とした薬剤師活動への意識、期待、不安、疑問などの調査した報告や、薬学教育を受ける中でそれらの変化に関する調査はほとんど報告されていない。本研究ではこれら調査、問題点抽出、その対応策などを検討した。

【方法】薬剤師国家試験予備校メディセレスクール在校生（既卒生）及び、模擬試験受験者（現役6年生）約 800 名を対象に無記名自記式のアンケート調査を行った。調査項目は、薬剤師資格をとりたい理由、就きたい職業、なりたい薬剤師像、薬剤師業務への不安などとした。また薬剤師のあるべき姿を考える上で役立つ長期実務実習の項目について VAS（Visual Analog Scale）による評価を行った。本調査は東大薬学部研究倫理審査委員会の承認を受けて行った。

【結果及び考察】薬剤師を目指したきっかけとして多い理由は「生活の安定」「生涯続けられる」「親の薦め」「給与が良い」等、将来の生活の安定を求めた意見が多く、薬剤師職能への積極的な意見は少なかった。一方で、目標とする薬剤師将来像としては「相談される薬剤師になりたい」「薬の専門家として評価されたい」等、その存在価値を掲げる意見も多く、薬学教育を受ける中で医療者としての自覚が生まれてくる傾向が見られた。実務実習経験の回答者からは、薬剤師のあるべき姿を考える上で役立つ実習項目として、薬局では「服薬指導」「災害時医療」があがり、病院では「疑義照会」「処方提案」「無菌調剤」などで評価が高い傾向が見られ、薬局、病院各々の特性を活かした実務実習が薬学生の意識に影響を及ぼしている可能性が示唆された。一方で、各項目への評価のばらつき、実習先格差への不満も見られ、実習事項統一と実習項目履行の遵守が必要と思われた。